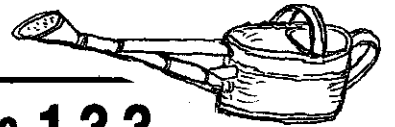


※憲法によって私たちの日々の生活が守られています。「憲法を護ろう」と同時に、さらに「憲法を生活の中で生かそう」ということが大切です。



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.133

2010(平成22)年5月3日(月)発行

じょうろ
如雨

<1947(昭和22)年5月3日は、日本国憲法“施行”の日で「憲法記念日」。満63年に。>



戦争で約300万人の死者を出し、その数倍ものアジアの人々を殺戮した日本国民にとって、世界で初の「戦争の放棄」は、平和への願いと過去の反省の証しです。(中国、韓国、北朝鮮で日本は何をしたか、もうすっかり忘れてしまっていますが。) 憲法案審議の際、当時の吉田茂首相<写真>は、「本案の規定は、一切の軍備と国の交戦権を認めない結果、自衛権の発動としての戦争も、また交戦権を放棄したものであります。」と述べています。

憲法記念日にあたって

**「自分の人生は失敗だったが、
日本国憲法の成立が一つの救いです」**

<日本国憲法発布にあたりマッカーサーのことは>

「本日私は日本国の新憲法をお祝いする。日本国のみなさん、おめでとうございます。皆さんの手ですばらしい憲法ができあがりました。

そこで個人的なことを言わせていただくと、私は軍人です。どうきれいに説明しても、軍人は人の命を奪う人間です。軍人というのは、人を殺す人間です。つまり、人を不幸にする人間であり、国を不幸にする人間です。本日、私は自分の人生をあらためて振り返ってみました。すると私は今日まで軍人として、ずっと人を不幸にしてきたこととなります。私は人を殺し続けてきたのです。

突然こんなことを言い出すと、皆さんは驚かれるかも知れませんが、私は自分の人生を失敗と思うようになりました。

しかし、私のこの失敗に終わった人生に一つだけ救いがあるとすれば、それは今日この日です。この憲法が世界のお手本となり、今年、そして来年、再来年と、後世の人々が、この憲法の本質を受け継げば、私たちのような軍人は、この世から消える運命になるでしょう。」

(ケン・ジョセフ著
『失われたアイデンティティ』光文社より)



占領連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサー。発布の時、日本国憲法を誇りに思い、世界の手にすることを期待していた。

●ダグラス・マッカーサー(1880~1964)は、米国の軍人。●第二次世界大戦の1942年連合軍南西太平洋方面司令官となり対日反攻を指揮。1945年日本占領連合軍最高司令官となって占領政策の実施に当たる。●朝鮮戦争で国連軍最高司令官を兼ねるが、原爆使用の強硬策を主張したため1951年トルーマン大統領に解任されアメリカに帰国。●日本史上最強の権力を行使したマッカーサーが、実はこのように日本国憲法を誇りに思い、自分の贖罪意識を憲法に託していたとは驚きです。●憲法は占領政策で成立したものであっても、それ以前の日本に芽生え成長していた精神を、鈴木安蔵などが開花させ制定させました。●5月18日改憲のための「国民投票法」施行ですが、国民を犠牲にし侵略など戦争責任への反省や贖罪のない新憲法など無意味です。二世、三世議員や既得権にあぐらをかく政治家、血税を吸い続ける官僚に「自主憲法」をいう資格はありません。

○この記事は、作家二上英朗さん(原町出身・福島市在住・会員)にご教示いただいたものです。

お待たせいたしました!

『いのちの山河』 第2回上映会

○5月15日(土) ①10時 ②2時 ③6時30分

○小高区浮舟文化会館 (チケットは朝日座と共通)

3月の朝日座に入場されなかった方、今回は温かい季節になり、お誘いあわせてご入場ください。当日券も1,000円です。

大澤豊監督が
第1回上映前
にご挨拶されます





憲法記念日特集

井上さん 護憲の灯守ります

高校非常勤講師 山崎健一 (福島県南相馬市 64)

「九条の会」の護憲のアピールに賛同し、私たちの地域でもこの会を立ち上げ、会員も400人を超えた。運動の呼びかけ人だった小田実さん、加藤周一さん、井上ひさしさんが亡くなったが、「憲法は変えない。平和憲法の理念こそが、日本や世界が目指すべき道」という遺志をしっかり受けついでいきたい。

特に井上さんは3年前、福島市で講演し、「日本国憲法は、人類の長い闘いを経て育

まれた自由や平等の精神を採り入れたもので、けっして押しつけてではない」「この憲法は、非軍事化を定めた南極条約や、南米・アジア・アフリカなどの非核兵器地帯条約の成立、さらに宇宙や海底などの非核化のために多大な貢献をしてきた」と熱く語った。

そして、日本人が知らないところで、この憲法が全世界に向けて平和の発信を続けてきたことを強調した。

さらにこの平和憲法の精神を生かし、自衛隊を国際救助隊に変えたり、各市町村が国

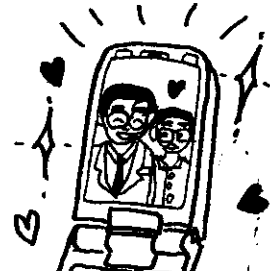
際法で守られ、攻撃されないよう「無防備都市宣言」をしたりすることを提案した。

昭和20年2月16日、私の住む原町は米軍の激しい空襲を受け、終戦直前にも空襲されて、一般市民に多数の犠牲者を出した。これは町に軍の飛行場があったからだ。この教訓から学び、今後、わが町でも「無防備都市宣言」をできるような活動していきたい。

いまごろ井上さんは、天国の「ひょうたん島」に渡り、基地や軍備のない、「戦争をしない国・日本」を願っているから、笑顔をみせていることだろう。

●事務局の山崎健一が、『朝日新聞』の5月3日「声・憲法記念日特集」に投書し、ご覧のように掲載されました。2007年10月21日、県九条の会主催・福島県文化センターで開催された井上ひさし氏講演会の内容です。(講演要旨は本会報No.41に掲載してあります。)

●講演会場控室に小高の青田利幸さんと井上氏を訪ね、小冊子『憲法』復刻版を贈呈。喫煙のため外に出られた時、快諾されたので携帯電話のカメラで図々しく一緒に撮影！井上氏が亡くなって“お宝”の待受画面にして自慢しています。



9条改正 67% 反対

「平和に役立つ」7割

本社世論調査

「改憲に期待」50%

本社世論調査 きょう 憲法記念日

<読売新聞>

憲法改正原案 自民提出へ

発議要件緩和

5月3日憲法記念日の三大全国紙一面「憲法」についての見出し(同じ2008年縮小)

いずれも「ゴルフ 石川遼優勝」の十分の一以下の小さな取り扱いです。社説はみな憲法記念日特集で、朝日が「失われた民意を求めて」と題し自治体のあり方を述べ、毎日「安保の将来含め論議を」で日本のかたちを論議しようと訴え、読売は「改正論議を危機打開の一助に」と改訂に積極的。新聞の読み比べも興味深いことです。

事務局より

◆満63歳の憲法。今年の憲法記念日はどう過ごされましたか。会としての特にイベントは企画しませんでした。会員それぞれ自分でも、他に働きかけることでも、何か憲法に関わることをされたことと思います。

◆内外に混迷の政治、どうなるのでしょうか。

◆会員は現在413名ですが、4月24日(土)の総会に50名のご出席、また蓮池透さん講演会には一般の方々も含め、130名のご入場でした。皆様公私の行事が重なったりして何かと大変お忙しく、慌ただしい中、ご参加ありがとうございました。お疲れ様でした。

「はらまち九条の会」事務局員連絡先(市外局番 TEL0244)

- 平田慶幸会長 TEL24-1211
- 山崎健一事務局長 TEL22-8631(〒975-0014 南相馬市原町区西町3-53-2)
- 井上由美(会計) TEL22-7511・FAX26-0892 ○石田賢二 TEL22-4037
- 早坂吉彦 TEL22-0326 ○香場恵子 TEL22-0715



<名歌> 「マッチ擦るつかのま海に霧ふかし 身捨つるほどの祖国はありや」 寺山修司 (1983年5月4日、47歳で死去)